

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専修学校エルケア医療保育専門学校		平成23年3月22日		成底 敏		〒 900-0029 (住所) 沖縄県那覇市旭町114-5 (電話) 098-860-7445		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人KBC学園		平成6年3月14日		大城 圭永		〒 900-0025 (住所) 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	教育・社会福祉専門課程	こどもみらい総合科	平成25(2013)年度	-	平成28(2016)年度			
学科の目的	近畿大学九州短期大学との連携・指導により、保育・幼児教育の知識を専門的に学び、関連施設において幅広く活躍できる知識技能を備えた「子ども達の成長を支える人材」を育成すると共に、社会的常識と接客マナー、豊かな人間性を備え明るく健康で建設的な意志を持った従事者を養成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	保育士資格・幼稚園教諭2種免許 等							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,060 単位時間	924 単位時間	1,656 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
80人	57人	0人	0%	8%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		26	人				
	■就職希望者数(D)		26	人				
	■就職者数(E)		26	人				
	■地元就職者数(F)		26	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生)						
		かぐらこども園、とよみこども園、いけむらこども園、結い保育園 他						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
		※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://www.lcare.ac.jp/schoollife/information/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		3,060 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		400 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		3,060 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		400 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		0 単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位					
	うち必修単位数		0 単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人					
	計		3人					
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①学生の就業対象となる業界及び職種における専門性に関する動向を受け入れた教育課程を編成する。
- ②教育課程編成委員は、専門的知見を有する企業等から選任、依頼する。
- ③教育課程編成会議を年2回実施し委員から意見や提言を頂く。
- ④校内カリキュラム委員会において、企業等の意見や提言を検討し実践かつ専門的な知識・技能を修得させるための実効性のある教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①学校の専門分野に係る業界動向、国および地域の産業振興の方向性、必要となる実務に関する知識・技術等から生じる専門学校の教育内容について意見交換等を行う事により、教育の質の向上をはかることを目的とする。
- ②教育課程は、教育課程編成委員会に諮り、学科の目標に照らして編成する。
- ③教育課程編成委員会へ、教務責任者(委員長)・学科責任者が参加することにより、企業等から提示された意見や提言を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
上原 健二	学校法人嘉数女子学園 沖縄女子短期大学 児童教育学科	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	②
大浜 富士野	社会福祉法人KBC愛育会 めぐみの森保育園	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	③
糸満 健次郎	社会福祉法人結い福祉会 結い保育園	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月13日 16:30～17:30

第2回 令和6年2月21日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

主体性を養うため、ボランティア活動や課題学習など保育分野で興味があることを学び深めていくカリキュラムの推進。朝の会の絵本の読み聞かせなど新しい取り組みを行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 保育・幼児教育機関へ実務実習の受け入れを依頼し、専門分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する為、関連施設と連携して実習、実技の演習を行っていくものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等から授業科目や授業内容・方法についての助言や意見を基に、演習等で必要な技術修得を図る。また生徒の学修成果の評価についても連携を図り、実践力を軸とした評価を行う。
 ① 実習実施前に依頼先医療機関と担当職員が、実習の目的および内容、評価、実習生について事前説明会を行う。
 ② 実習期間中には依頼先への訪問、電話等での実習状況や学生指導についての要望などの意見を伺う。
 ③ 実習終了後、学修成果の評価にあたり実務の視点から意見を頂くため、生徒が修得した技能及び実践的かつ専門的な能力について評価を頂き、学生に対しフィードバックを行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ (保育)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	保育現場で保育を経験することにより、学習してきた理論や技術が実践と具体的にどのように繋がるのか理解し、実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。	那覇市立病院、友愛医療センター、かかず耳鼻咽喉科クリニック、とくりん薬局、なな歯科クリニック 他
保育実習Ⅰ(施設)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設での実践と助言指導を通し、社会的養護に関する専門的な理解と知識・技術を学ぶ。	那覇市立病院、友愛医療センター、かかず耳鼻咽喉科クリニック、とくりん薬局、なな歯科クリニック 他
保育実習Ⅱ (保育)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を修得し、子育て支援能力、福祉ニーズの理解力・判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成をめざす。	那覇市立病院、友愛医療センター、かかず耳鼻咽喉科クリニック、とくりん薬局、なな歯科クリニック 他
教育実習Ⅰ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、実習を通して理解し、部分実習または、全日実習の指導計画を立案する	那覇市立病院、友愛医療センター、かかず耳鼻咽喉科クリニック、とくりん薬局、なな歯科クリニック 他
保育実習Ⅰ(施設)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら部分実習、全日実習の作成および指導、保育技能等を習得する。	那覇市立病院、友愛医療センター、かかず耳鼻咽喉科クリニック、とくりん薬局、なな歯科クリニック 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するための教育活動を実践するため、関連する機関と連携して実務に関する知識、技術、技能の修得及び教員個々の教育活動上の役割を考慮し、指導スキルの向上を目的とした組織的かつ計画的な研修を行う。

- ① 教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招き、専攻分野における知識・指導力向上研修
- ② 学園本部主催の研修・研究会および外部研修など指導力向上を目的とした自己啓発的な研修
- ③ 学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 求められる保育者育成とは	連携企業等: 社会福祉法人わかめ福祉会
期間: 2023年11月14日	対象: 教務職員
内容: 保育業界の現状を踏まえ、保育者育成のポイントを現役の園長より学ぶ	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: コーチング研修	連携企業等: 財団法人職業教育・キャリア教育財団
期間: 2024年3月26日	対象: 教務職員
内容: ティーチングとコーチングの相違を理解し主体的な学習を促進させる技術を習得する	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	アレルギー大学ベーシックプログラム	連携企業等:	沖縄アレルギーゆいまーの会
期間:	2024年11月23日	対象:	教務職員
内容:	食物アレルギーに関する医学、食品学、職員表示、食育などの基本的な知識を学び、現場対応の概略を理解する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ID(インストラクショナルデザイン)研修	連携企業等:	財団法人職業教育・キャリア教育財団
期間:	2024年11月15日	対象:	教務職員
内容:	シラバス・コマシラバスの目的・必要性及び活用することの必要性を理解し、教育効果を高めていく		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人財を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ②学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか ③教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか ④各学科の教育目標、育成する人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者とそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか) ⑤学校における職業教育の特色は明確になっているか
(2) 学校運営	①教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか ③運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか ④運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。有効に機能しているか ⑤組織機能図があるか ⑥運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか ⑦職員の能力開発のための研修等が行われているか ⑧関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか ⑨専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教員の業務経験や能力、担当する授業や業務に応じて組織的・計画的に受講させているか ⑩人事に関する制度を整備しているか ⑪給与に関する制度を整備しているか ⑫情報システム化等による業務の効率化が図られているか(情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか)

(3)教育活動	<p>①教育目的および育成する人材像に基づいた教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、教職員および学生等に周知しているか。</p> <p>②教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>③教育目的および育成する人材像に基づいたディプロマポリシーを明示し、教職員および学生等に周知しているか</p> <p>④講義および実習に関するシラバスは作成されているか</p> <p>⑤シラバスあるいは講義要項(またはコマシラバス)などが事前に学生に示され、授業で有効活用されているか</p> <p>⑥適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容およびその評価方法、評価項目、手段、スケジュールは適切か)</p> <p>⑦学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)</p> <p>⑧評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか</p> <p>⑨カリキュラム作成の際、複数のメンバーによるカリキュラム作成やカリキュラム作成委員会等の形で、作成したカリキュラムの検証が行われているか</p> <p>⑩カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか</p> <p>⑪キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>⑫関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか</p> <p>⑬成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p> <p>⑭専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか</p> <p>⑮資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>
(4)学修成果	<p>①就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか)</p> <p>②学生の就職に関する目標が、教職員に共有されているか</p> <p>③学生の就職活動に関する記録がなされているか</p> <p>④就職実績を公表しているか</p> <p>⑤資格取得率の向上が図られているか</p> <p>⑥資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか</p> <p>⑦資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか</p> <p>⑧資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか</p>
(5)学生支援	<p>①進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれは学生や保証人(保護者)に周知されているか)</p> <p>②学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)</p> <p>③奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>④学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか</p> <p>⑤学生の生活環境への支援は行われているか(学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)</p> <p>⑥保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか</p> <p>⑦卒業生への支援体制を整備しているか(再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか)</p>
(6)教育環境	<p>①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか)</p> <p>②教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか</p> <p>③施設・設備の点検、補修・修繕等は定期的にまたは適宜行っているか</p> <p>④学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>⑤防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか</p> <p>⑥防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか</p> <p>⑦定期的に防災訓練を実施しているか</p> <p>⑧学校における安全管理の整備を行っているか</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>①学生募集活動は、適正に行われているか(社会人、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れ方針を明確にしているか)</p> <p>②入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、教職員および学生等に周知しているか</p> <p>③学校説明会等による情報提供を行っているか(育成する人材像、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報など)</p>
(8)財務	<p>①年度予算・中期計画が策定されているか</p> <p>②予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか</p> <p>③私立学校法に基づく財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか</p>

(9) 法令等の遵守	①関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか ②学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ③個人情報保護規程が文書化されているか ④自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか ⑤自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか ⑥学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか ⑦教育活動に関する情報公開が適切になされているか ⑧自己点検評価結果を公開しているか ⑨学校関係者評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①教育資源(教職員の出張講座等)や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各委員よりあった教育実績、学生募集(業界動向)、退学における今後の課題について関係する職員と共有の上、改善に向けて行動に反映している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石川 久	公益社団法人 日本医業経営コンサルタント協会	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	企業等委員
大濱 富士野	めぐみの森保育園	令和6年4月1日～令和7年3月 31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.lcare.ac.jp/schoollife/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等々の関係者が専修学校専門課程全般について理解を深めるとともに、当該企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、専修学校専門課程の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し説明するなどの取り組みを行う。

また入学希望者の適切な学習機会選択に資するため、広く社会に学校の情報を発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の沿革 ②特色 ③校長挨拶 ④所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①募集定員 ②入学方法 ③カリキュラム ④目指す資格・検定 ⑤資格・検定取得実績 ⑥就職状況
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育への取り組み ②就職支援への取組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	①キャリアカウンセラー ②サポート体制 ③学生の声
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費免除等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果、自己点検評価
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.lcare.ac.jp/schoollife/information/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英会話 I	日常の会話を英語で楽しむことができるようになる為に、基礎的な事柄を練習問題を交えて学ぶ。	1通	32		○	△	△	○			○
2	○			健康科学	健康維持や体力向上に対するスポーツ活動の持つ教育的意義について説明することができる。	1前	16		○			○			○
3	○			情報処理入門 I	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア/ソフトウェアについて概観する。	1通	32		○	△		○		○	
4	○			日本国憲法	憲法が大切にしている原理・原則は何か、実現する為の政治の仕組みなどを体系的に学習する。	1前	30		○			○			○
5	○			幼児の心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16		○			○			○
6	○			教育原理	教育の本質・意義・機能に関する理論的知識を習得し現代社会における教育の諸課題について考察する力を身に付ける。	1通	30		○			○			○
7	○			造形表現法 (指導法)	造形の基礎となる平面(デッサン、色彩)立体(動くおもちゃ、粘土)の作品制作を通し幼児の造形活動への理解を深める。	1通	32			△	○	○			○
8	○			児童文化	児童文化の歴史や現在の児童文化を取り巻く環境を学び、様々な児童文化財について、与え方や作り方を学習する。	1前	32		○	△		○		○	
9	○			社会福祉	現代における社会福祉の全体像を理解し、社会的に支援が必要な本人とその家族への具体的な支援の事例を通して社会福祉の全体像を理解する。	1前	30		○			○			○
10	○			社会的養護 I	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設に入所児童の対する社会的養護の基本的なあり方を学ぶ。	1通	30		○			○			○
11	○			幼児と言葉	言葉の発達の理解や指導について正しい考え方、導き方の根拠を与え、保育内容としての「言葉」を理解する。	1前	16		○			○			○
12	○			幼児と人間関係	幼児期の発達の特性と幼児教育・保育についての基本的な考え方、保育内容の領域「人間関係」の意義、人間関係の構築に必要な内容を理論的に学習する。	1前	16		○			○		○	
13	○			幼児と環境	乳幼児期に自然や様々な物に触れ、体験を積み重ねることで生きる力の基礎になる。「環境と関わる力」の発達や保育方法を学ぶ。	1前	16		○			○		○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
14	○			教育課程総論	教育課程・保育計画の基本的な考え方、子どもの発達や遊び等の基礎の理解を通して教育課程、保育計画の編成や作成の方法を把握する。	1通	30		○			○			○
15	○			生涯スポーツ	幼児期、青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し障害者や高齢者を対象とした運動スポーツ活動のレパートリーを増やす。	1後	15			○			○		○
16	○			幼児と音楽表現	子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎(発声法)を学び、保育の実際の中で工夫が出来るようになる事を目指す。	1後	16			○		○			○
17	○			教育心理学	心理学における様々な研究から得られた知見を演習を通し学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになる事を目指す。	1前	16		○	△		○			○
18	○			人間関係(指導法)	「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識技術を習得し、子どもの理解を深める。	1前	16		○	△		○			○
19	○			音楽表現(指導法)	音楽表現の理論及びリズム理論の学習を中心に、各種分析法と表現法の理解を深め、実践演習(分析結果による演奏)を行う。	1後	16			○	△	○			○
20	○			環境(指導法)	激変する社会環境で子ども達の生きる力を培うために、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1後	16		○	△		○			○
21	○			言葉(指導法)	言語について基礎知識・技術を習得し、児童文化財に関する基礎知識の習得及び遊びを通して、表現力を育む保育活動を構想・実践する。	1前	16		○	△		○			○
22	○			劇遊び(指導法)	福祉・保育に関する知識・技能を活用し演劇をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	1前	16			○	△	○			○
23	○			ピアノ演習 I	初心者から経験者まで個々に合った指導を実施し、両手で弾き歌いができるような実技指導を行う。	1通	125			○		○			○
24	○			パソコン演習 I	保育現場でもOA機器の活用がある為、タッチタイピングの習得と日本情報処理検定協会主催日本語ワープロ検定合格を目指す(任意受験)	1通	46			○		○			○
23	○			基礎実践 I	一般的なビジネスマナーの習得とコミュニケーションスキル向上、自己PRができることを目指す。	1通	29		△	○		○		○	
24	○			保育研究 I	絵本、紙芝居などの読み聞かせやエプロンシアターなどの製作・実演を通して保育技術の習得を目指す。	1通	120			○		○		○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
25	○		実習指導 I	実習事前学習として、子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、保育実習準備を行う。	1通	10		○	△		○		○		
26	○		志学 I	周囲との協働を保ちつつ、使命感を持って行動できる”自立心”を育成し、与えられた人生に感謝しながら高い志をもって歩む力の必要性に気付く事を目的とする。	1前	20		○	△		○		○		
27	○		実務研究 I	保育園インターンシップ・障が者施設インターンシップ・他校コラボ授業や学習発表会の実施時間として設定する。	1通	36				○	△	○	○		
28	○		総合学習 I	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	1通	196		△	○		○		○		
30	○		子ども家庭福祉	子どもと家庭に関する幅広い内容を学習し、保育者として子どもの最善の利益をはかる為の基礎的な知識を習得する。	2前	30		○	△		○			○	
31	○		保育原理	保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想と歴史の変遷について基本的な内容を理解する。	2前	30		○	△		○		○		
32	○		子ども家庭支援論	地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考える。	2通	30		○			○		○		
33	○		幼児への特別な支援	特別支援を必要とする幼児(知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等)の心身発達と心理的特性及び学習課程を理解する。	2前	16		○			○			○	
34	○		子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解し、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	2通	30		○			○			○	
35	○		子どもの食と栄養	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する。	2通	36		○		△	△	○		○	
36	○		教育相談	子どもの心の成長やつまずき、保護者への支援に関しての理解を臨床心理学的視点から深め、子どもや家庭への支援の基礎を学ぶ。	2前	30		○			○			○	
37	○		教職概論	教職・保育職の意義や役割、職務内容の基本的理解を通して、保育者には何が求められるのか自分なりの見識を有することを目標としている。	2通	30		○			○			○	
38	○		教育方法論	乳幼児期の教育(保育所・幼稚園・認定こども園)現場における教育の方法の基本原則を知識として習得し、遊びを中心とした実践へとつなげていく。	2前	30		○			○			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
必修	選択必修	自由選択														
39	○		健康(指導法)	子どもにとって望ましい遊びと、家庭・園・地域社会の生活の過ごし方を見直し、優れた理論を実践化していく。	2後	16		○				○		○		
40	○		教育実習事前指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	2後	8		○	△			○			○	
41	○		音楽表現技術	「幼児と音楽表現」を基に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得し、弾き歌いのレパートリーを増やす。	2後	16			○			○			○	
42	○		幼児と造形表現	豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と実践的教育指導の習得を目指す。	2前	16		△	○			○			○	
43	○		幼児と健康	保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの広げ方を理解し、運動あそびの指導に必要な保育技術を学ぶ。	2後	16				○		○			○	
44	○		障害児保育	子どもの心身の発達及び脳の発達について理解を深め、子どもの知的・情緒的・身体的障がいについての理解を深めていく。	2前	16		○				○			○	
45	○		子育て支援	子育て支援・相談援助活動の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助課程各技術を効果的に活用するための理論と方法を身につける。	2後	16		○	△			○			○	
46	○		社会的養護Ⅱ	障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。	2後	16		○	△			○			○	
49	○		保育実習事前指導Ⅰ(保育所)	保育実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2前	8			○			○			○	
50	○		保育実習事前指導Ⅰ(施設)	施設実習に臨む心構えを作り、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。実習後の総括と自己評価、新たな課題を明確にする。	2後	8		○				○			○	
51	○		保育実習Ⅰ(保育)	保育現場で保育を経験することにより、学習してきた理論や技術が実践と具体的にどのように繋がるのか理解し、実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。	2前	80				○		○			○	○
52	○		ピアノ演習Ⅱ	教本「バイエル」より楽譜が読めるようになり、弾きこなす。声楽の実技により弾き歌いができるように実技指導を行う。	2通	130			○			○			○	
53	○		パソコン演習Ⅱ	表計算ソフト「Excel」を学び、サーティファイExcel表計算処理検定合格を目指す。	2後	30		△	○			○		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
54	○			基礎実践Ⅱ	保育者として求められるマナーや立ち居振る舞いの他に実習生としての基本的なビジネススキルやビジネス文書・冠婚葬祭について学習する。	2前	20		△	○		○		○	
55	○			保育研究Ⅱ	子どもを楽しませる技術を習得し実践する(パネルシアター作成・実演、手遊び、絵本の読み聞かせ、自己紹介グッズ)	2通	78			○		○		○	
56	○			実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	2通	109		△	○		○		○	
57	○			実務研究Ⅱ	本実習前に実践を通じて、保育の技術、能力を向上させ、2歳児未満の発達や関りを知る	2前	12					○		○	
58	○			総合学習Ⅱ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	2通	187		△	○		○		○	
60	○			乳児保育Ⅰ	テキストや保育所保育指針、その他の参考資料を用いて、3歳未満の発達過程やその保育の意義を理解し、援助の方法を学ぶ。	3通	30		○	△		○		○	△
61	○			乳児保育Ⅱ	講義やDVDを通して、乳児保育の必要性や他との連携など基本的な知識を学び、乳児保育Ⅰで学んだ内容を振り返る。	3前	16		○	△		○		○	△
62	○			保育・教職実践演習	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育者に求められる資質能力の習得を確認する。発表・議論・ロールプレイ、模擬保育等を組み合わせ行う。	3後	32		△	○		○		○	
63	○			子どもの保健	子どもの保健の意義がわかり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題や発達段階各期の特徴を述べることができる。	3通	30		○	△		○		○	
64	○			保育の心理学	人格形成の基礎を築く乳幼児期の子どもに関わる保育者が「生涯発達」の視点で乳幼児期の発達を理解し、乳幼児の精神発達とその教育について考える。	3通	30		○			○		○	
65	○			子どもの健康と安全	子どもの健康は心身の健全な発育・発達が基本となることから保育者は専門的な知識と技術が求められる。子どもの健康と生命を守る為の実践力を身に付けることを目標とする。	3後	16		△			○		○	
66	○			保育実習事前指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3前	8		○	△		○		○	
67	○			保育内容総論	①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。②保育の総合性を踏まえ、指導計画の立案・実施することができる。	3後	16		○	△		○		○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
68	○		保育実習Ⅰ(施設)	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設での実践と助言指導を通し、社会的養護に関する専門的な理解と知識・技術を学ぶ。	3前	80			○		○		○	○	
69	○		保育実習Ⅱ(保育)	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を修得し、子育て支援能力、福祉ニーズの理解力・判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成をめざす。	3前	80			○		○		○	○	
70	○		教育実習Ⅰ	幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、実習を通して理解し、部分実習または、全日実習の指導計画を立案する	3前	80			○		○		○	○	
71	○		教育実習Ⅱ	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら部分実習、全日実習の作成および指導、保育技能等を習得する。	3前	80			○		○		○	○	
72	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰでの学びをもとに保育士として必要な資質・能力・技術を高め保育の実践力を養い保育実習Ⅱに向け準備を行う。	3前	38		△	○		○		○		
73	○		施設実習指導	保育所以外の児童福祉施設その他の社会福祉施設の概要を知り社会的養護に関する理解を深め、各自の実習先に特化した事前学習と実習準備を行う。	3前	22		△	○		○		○		
74	○		教育実習指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、習得した知識・技能を保育実習だけでなく教育実習に対する意欲や課題意識へと移行させ実習準備を行う。	3前	30		△	○		○		○		
75	○		ピアノ演習Ⅲ	実習や就職を見通し具体的な目標を持って子どもの歌の歌唱、伴奏、弾き歌いの技術を高め実践力を養う。	3通	50			○		○			○	
76	○		パソコン演習Ⅲ	就職を見通しパワーポイント操作や保育園だよりの文書作成の技術を高める。	3後	10			○		○		○		
77	○		志学Ⅱ	やりがいを持てる社会人生活を送る為に社会との繋がりの中で自分自身の生きる姿勢を探求し、各ロールモデルの中から自身の「志」を具体化させていく事を目指す。	3前	16		○	△		○		○		
78	○		親学	「親としての学び」「教育者としての親」について学習する事で、自身のこれまでの成長に「感謝」と共に礼儀や日本人としての矜持・誇りについて学ぶ事を目的とする。	3後	16		○			○		○		
79	○		保育研究Ⅲ	前期は実習で使用する自己紹介グッズや責任実習の使用物製作を行い、後期は保育発表会に向け製作や実技練習を行う。	3通	50			○		○		○		
80	○		総合学習Ⅲ	「豊かな人間性」を育むため、学内外の様々な授業や行事を通して協調性・思いやり・気配り・積極性・感謝など自身の体験を通して身につける科目として位置付ける。	3通	153		△	○		○		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 こどもみらい総合科)令和6年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
81	○		保育発表会	3年間学んできた福祉・保育に関する知識・技能を活用しその集大成としての演劇をチームで作成する事により、これからの保育現場で更に発展させていく力を養う機会とする。	3 後	66		○	△	○	△	○	△		
合計				81 科目			3,060 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校に在学し、2,590時間以上の授業時間以上を履修し、かつその該当する所定の授業科目について各学期末における試験に合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する	1学年の学期区分	2期
履修方法：	<p>【履修評価】</p> <p>1. 評価は原則として科目ごとにその前期・後期終了時で其々の評価をする。</p> <p>2. 評価は、平日の授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、期末試験等によって行い、原則として絶対評価とする。</p> <p>【学業成績】</p> <p>学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優、良、可評価をもって履修とする。</p> <p>優：科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が著しく優秀な者</p> <p>良：科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況が良好な者</p> <p>可：科目に対する理解及び日常の授業態度及び出席状況がやや劣る者</p> <p>不可：科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく劣る者</p> <p>【卒業】</p> <p>本校に在学し、全ての科目において「可」以上の成績を修め、各学科設定の基準検定等を取得し、かつ総授業時間数の90%以上の履修を得た者に、卒業証書を授与する</p>	1学期の授業期間	26週